

き  
み  
の  
な  
ま  
え

作・永山智行

きみのなまえ

作・永山智行

登場人物

【ミュージカル参加者】

大友優太 中学生 不登校  
田崎梨華 中学生 卓球部  
井端花奈 中学生 卓球部  
川村美結 中学生 卓球部  
椎名理沙 高校生  
長谷川琴子 小学生  
川上紀子 主婦  
大石幸男 サラリーマン  
片山広美 おじいちゃん  
ジェームス・オリバー 外国人  
福田周平 実行委員長  
松本彩音 車椅子の女性  
小野由香里 音楽の指導者  
袴田タカシ ゲストタレント  
柳 啓太 マネージャー

【ホール関係者】

岩田陽介 若手ホール職員  
森 健作 館長

【その他】

椎名巧一郎 県議会議員

町民文化ホールのホワイエ。

大きな絵が飾ってある。何を描いているかはわからない抽象画だが、彩りは鮮やかである。

この町出身で、現在イタリア在住の画家の作品らしい。

アップライトのピアノがある。(あるいは、簡易なキーボードが運びこまれている。)

長椅子が数脚ある。

秋の日。日曜日の朝九時半過ぎ。

十一月にある町民ミュージカル「しあわせ」(主催：実行委員会 共催：〇〇町・〇〇町教育委員会)の合唱隊の練習日。

ジャージ姿の女子中学生三人が長椅子に座っている。

小野由香里が、走ってやってくる。

小野 おはようございます。すみません、遅くなって——、(見て) え？

梨華 あ、おはようございます。

小野 ……え？ あの、ここ、町民文化ホールよね？

梨華 あ、そうです。

小野 えーっと…、九時半からこの文化ホールのホワイエで来月の町民ミュージカルの合唱の練習があるって…

花奈 あ、はい。ここです。

小野 えーっと…、三人だけ？

梨華 みたいですよ。

小野 えーっと、みんなは、出演者？

美結 (三人、顔を見合わせ) あ、まあ…

小野 んーっと、近くの中学生？

梨華 はい。

小野 合唱部？

花奈 いえ、卓球部です。

小野 ん？

花奈 卓球部。

小野 ん？

花奈 卓球部。

小野 んーっと、…出演者、なんだよね。

美結 まあ。

小野 ……。で、あの、他の出演者は？

梨華 あ、あの、わたしたちも、(二人に) ねえ。

二人 うん。

梨華 あの、今日がはじめてなんです。

美結 先生に、あの、参加してみたらって言われて。

小野 ああ、合唱部の先生に？

花奈 いえ、卓球部です。

小野 ……。うん、まあ、その問題は、あんまり、もう触れないようにしよう。(切り替えて) じゃあ、なんで、時間なのに、出演者が揃ってないかは、みんなは知らないんだよね。

梨華 はい。今日がはじめてなんで。

小野 そう、だよね…。練習の場所が変わったのかなあ…

三人 (首をひねる)

小野 あ、それか時間が変わったか…

三人 (首をひねる)

小野 ……、だよね…

福田周平がやってくる。

福田 あ、おはようございます。もしかして、あの、小野先生ですか？

小野 あ、はい、小野です。

福田 すみません、遅くなってしまつて。わたし、あの、ミュージカルの実行委員長をしている、福田といいます。何度かあの、お電話で。

小野 ああ、はい。

福田 すみません、今日は、わざわざ遠くから。

小野 あ、いえ。

福田 あの、前任の山城先生からは、どこまでお聞きになられてます？

小野 あ、いえ、あの、…ま、とにかく山城先生が、急遽、仕事で広島の方に引越すことになったから、今日から、あの、ミュージカルの、合唱隊の歌の指導をして欲しいと。

福田 あの、そこから先は？

小野 先？先…は、聞いてないですけど…

福田 ああ…、そうですか…

小野 え？あの、なんか、あるんですか？そこから先が？

福田 あ、いえ。あの、ちよつと、いろいろありまして、今日の全体練習がなくなつて、あの、希望者だけの自主練習になつてしまつて…

小野 え、じゃあ、みなさんはいらつしやらないんですか？

福田 そう、ですね…、一応、今日は、希望者だけということ…

小野 そうなんですか…

福田 すみません。こちらもてつきり、山城先生からそのあたりも伝わっているもんだと思つて…

小野 いや。

福田 すみません。

梨華 あのう。

福田 ん？

梨華 えつと、じゃあ、今日は練習はないつてことなんですか？

福田 あ、いや、全員は来ないつていうだけで、あの、練習自体は、あの、希望者だけでやるつていうことにはなつてゐるんで。

花奈 それつて、何人くらい来るんですか？

福田 まあ、あの…、希望者だけ？

花奈 ああ…。

梨華 (顔を見合わせ) どうする？

福田 あ、もしかして東中の、卓球部の？

美結 あ、はい。

福田 あ、卓球部の先生から話しは聞いてたよ。そうか、三人も来てくれたんだ。ありがとう。

梨華 あ、いえ。

福田 ま、もう少ししたらみんな――、ま、何人かは来ると思うからちよつと待つて。あの、優君もきつと来ると思うから。

梨華 ……、はあ……。

車椅子の女性、松本彩音がやつてくる。

福田 ああ、あーちゃん、おはよう。

松本 おはようございます。

福田 来てくれたんだ、ありがとう。

松本 せっかくだし。今日、ヘルパーさんもお願ひしてたから。

福田 そうか。

椎名理沙がやつてくる。

理沙 おはようございます。

福田 あ、おはよう。

理沙、車椅子の松本を気にしながら、横を通る。

松本 あ、おはよう。

理沙 (松本に) おはようございます。(中学生たちを見て福田に) あ、新

しいメンバーですか？

福田 うん。東中の卓球部の子たち。

理沙 ああ、優君と同じの？

福田 そう。

理沙 (中学生たちに) あ、椎名理沙です。高二です。一応、みんなの先輩です。

美結 あ、東中ですか？

理沙 うん。

福田 (紹介して) あ、この方は山城先生の後任の小野先生。

小野 小野です。

松本 あ、よろしくお願ひします。

文化会館の館長の森が、ミュージカルのゲストタレントの袴田タカシと、マネージャーの柳を連れてやってくる。

館長 ——それで、ここが文化会館のホワイエになります。

柳 うわー、懐かしいなあ。

タカシ そうかマネージャー、お前、この町の出身だったもんな。

柳 はい。小学校とか中学校とかの音楽発表会で何度か来たことがあって。

タカシ ふーん。

福田 あ、あの館長。

館長 あ、福田君。あ、ちようどよかった。こちら、今度のミュージカルに

ゲスト出演してもらおう、袴田タカシさん。

柳 (盛り上げて) タカチーン！

タカシ はい、タカチンです。

館長 ……。あ、で、袴田さん、こちらがミュージカルの実行委員長の福田

君。

福田 福田です。何度かお電話で……

タカシ あ、はいはい。あ、君ね。

福田 でも今日はどうなさったんですか？おみえになるのは、本番の一週間

前だと……

柳 たまたま近くの映画館でトークライブがあったものだから、あの、今

度の映画のキャンペーンで。

タカシ 観てくださいいね、『紅の忍者ども』。

福田 はあ。

柳 それで、袴田が、せっかくだから自分が立つ舞台を見ておきたいと言いまして、それで東京に帰る前に急遽、こちらに立ち寄らせていただくことになったのです。

福田 そうなんです。 (袴田に) ほんとうにありがとうございます。

タカシ ま、業界人として当たり前のことをしたただけだね。

福田 あ、あの、全員じゃないんですけど、(紹介して) 今回のミュージカルの合唱隊の町民出演者です。

タカシ (みんなを見て) そ、よろしくね。ぼく、ミュージカルはじめてなんで、いろいろ教えてください。ふふ。

一同、微妙な反応。

タカシ あれ？

館長 さ、袴田さん、ステージの方、ご案内します。

タカシ うん。

館長 どうぞ、こちらです。(行きかけて、福田に) あ、福田君、

福田 はい。

館長 例の議員さんの件、あとでちよつと相談させて。今は、まあ、ちよつ

とおとなしくしといてね。

福田 はあ……

タカシ ねえ、館長。(抽象画を指して) 何この絵？

館長 あ、これは、この町出身の画家さんの作品です。

タカシ ふーん。

館長 いま、あの、イタリアを拠点に世界中で活躍されている方

して。

タカシ タイトルは？

館長 「彩(いろどり) II」

タカシ …… (しばらく見て) なんか、わけわかんないね。  
館長 はあ、まあ。さ、どうぞ、こちらです。

タカシと柳を案内して館長は去る。  
入れ替わりに大石と川上と琴子がやってくる。

大石 ね、ね、今の、タカチンじゃなかった？

理沙 みたいです。

大石 へー、実物って結構、なんか、ちっちゃいんだね。

琴子 大石さん、タカチンって誰ですか？

大石 え、知らない？タカチン。ほら、ずーっとあのカレーのCMに出てた、「汗、かくぜー」っていうの。なんか、最初はなんとかっていう五人組のアイドルグループにいて、そのあと、ソロになって、それで、カレーの、ね、知らない？

高校生、中学生、小学生は首をひねる。

大石 え、紀子さんは知ってるよね？

川上 (首をひねる)

大石 えー。おつかしいなあ。え、でも、周平さん、あの人、出るんですよ

ね、今度のぼくたちのミュージカル。ゲストかなんかで。

福田 うん。まあ。

大石 え、今日はどうしたんですか、練習でも見にいらっしやっただんですか？

福田 なんか、仕事で近くまで来たから、舞台を見に来たんだって。

大石 へー。

松本 周平さん、ちよつと訊いていいですか？

福田 え、でも、ぼく、あんまり詳しくないよ、袴田さんのこと。

松本 いや、そっちじゃなくて。あの、さつき、館長が言ってた、議員さんの件、あれ、今日の全体練習がなくなったのも、関係あるんじゃないんで

すか？

小野 え、そうなんですか？

福田 ……

松本 もしかして、本番もできなくなるみたいな話なんじゃ……

福田 いや、本番はやるよ。本番はやる。

松本 ……

声がする。

優 (声) ——こつちです。ふだんは練習室で練習やるんですけど、今日は

ちよつと場所がなくて。

片山 (声) でもほんとに大丈夫かな。

ジェームス (声) ノープロブレム。まったくモンダイないね。みんなウエルカムだよ。

ジーンズ姿の中学生、優が、アメリカ人のジェームス

と一緒にやってくる。

八十歳くらいの老人、片山を二人で案内してくる。

ジェームス みなさん。オハヨウゴザイマス。(片山を紹介して) こちら新

しく——

優 (気づいて) あ。

梨華 あ。

花奈・美結 優ちゃん。

三人、優に駆け寄る。

優 え？なんで？え？ここに？

梨華 監督がなんかチラシ見たんだって、このミュージカルの。そしたら優ちゃんの名前があったから、優ちゃんのお母さんに聞いて。それで、(二

人に) え、なんだっけ？

美結 何が？

梨華 ほら監督が言ったやつ。

美結 ああ。

花奈 「ミイラ取りがミイラになる」？

梨華 違う！ま、でも、なんかそんな感じの……

美結 「虎穴に入らずんば虎子を得ず」

梨華 ああ、それぞれ！

優 え？

梨華 とにかく優ちゃんに卓球部に戻ってもらうために、あたしたちが優ちゃんのとこに行こうって。

優 え、それでミュージカルに出ることにしたの？みんな。

花奈 うん、まあ、なんか、勢いで？なんか、そうなっちゃって。(二人に)

ねえ。

梨華・美結 うん。

優 もう……

梨華 ねえ、優ちゃん、戻ってきてよ。卓球部。

優 うん……、卓球部には、戻りたいんだけどね……

美結 え、だったら、

優 うん……

「福田さん」と呼びながら、文化会館職員の岩田がやってくる。

岩田 ああ、よかった、ここにいた。

福田 あ、おはよう、岩田君。

岩田 (見て) あ、みなさん、おはようございます。

福田 どうしたの？

岩田 あ、はい。あの、館長がちよっと話をしたいそうです。

福田 あ、そう。館長室？

岩田 はい。

福田 (行こうとして)

岩田 福田さん、辞めないでくださいね。

一同 ？

岩田 いや、ほんと辞める必要なんてないんですから。なんか、職員のおぼくが言うのもあれですけど。

大石 ん？周平さん、どういうことなんですか？

岩田 (ペラペラと) 実行委員長を交代できないかって言われてるんですよ。

館長に。あ、ま、やんわりとですけどね。

大石 え、なんで？

岩田 いや、なんか、県会議員さんに言われたとかで、館長、ビビってるんですよ。

大石 え、何を？何を言われたの？

岩田 あの、

福田 岩田君。

岩田 はい。

福田 いいよ。あとはぼくが自分で話す。

岩田 あ、はい。

福田、みんなの顔を見て、息をつき、ゆっくり話します。

福田 ……琴子ちゃん、いま、何年生だっけ？

琴子 六年生です。

福田 そうか。……うん。

琴子 え？

福田 ううん。何でもない。

琴子 はあ……

福田 ……えつと……、もしかしたら何人かは知ってるかもしれないけど、ぼくは、…男なただけど、…でも、男として、…男の人が、好きなんだ。

あー、ちよつと違うな……。えーつと、……。好きになる人が、男なんだ。

松本 それってえーつと、だから恋愛の対象が男性だっていうこと？

福田 うん。まあ、そういうことかな。

大石 え、でも、それこのミュージカルと何の関係もないじゃないですか？

福田 うん、そうなんだけども……。でも、……。残念だけど……。そういうこと、なんていうかな、……。んー、気持ち悪いことだと感じたり、おかしなことだと思ふ人も、やつぱりいて……。別にそういう人たちのこと責める気はないんだけど、でも、やつぱり、……。こんな人間もいるんだってこと、知ってほしくて、そういう……。まあ、LGBTって言ったりもするんだけど、……。ほんとはそんなカテゴリーみたいなもの、なくなればいいと思うんだけど……。ま、でも、とにかく、こんな、ぼくみたいな人たちのこと知ってほしくて、だから、このミュージカルとは別に、あの、先月も、ぼく、そういうみんなの存在を知ってもらうためのパレードを、あの、県庁前でやったりして、それがなんかこの間ニュースに出たりしたもんだから、……。だからたぶん、ぼくがこのミュージカルの実行委員長をしてること、……。やつぱりあの、小学生とか中学生とか高校生とかいるから、なんか悪い影響があるんじゃないかって、んー、まあ、考えたりする人もいるのかなって……。ま、教育委員会の予算も使ったりするしね……。うーん、だから、まあ、ぼくが交代して、このミュージカルがうまくいくんならって……。んー、まあ、考えたりもするんだけど……

岩田 そんなのダメつすよ！福田さんが辞めることなんかないつすよ。だいたい福田さんが実行委員長だから、ここまでこのミュージカルやってこれたんじゃないつすか。

大石 誰なんですか、そんな……。周平さんのこと、なんか言ってきた議員つて。

岩田 たぶん――

理沙 わたしのお父さんだと思います。

岩田 え？

理沙 わたしのお父さん、ここの館長の先輩だから。高校の野球部の。

大石 え、理沙ちゃんのお父さん、議員さんだったの？え、椎名……

理沙 巧一郎です。

大石 ああー、聞いたことある。

理沙 あの、周平さん……。えーつと、ほんとにごめんさい。

福田 いいよ、理沙ちゃんが謝ることじゃないし。

理沙 でも……

福田 いろんな考えの人がいる、そのこと自体は自然なことだと思う。悪いことなんかじゃない。ただ、だとしたら、やつぱりぼくは、その人と直接話してみたいなって、ほら、ぼくはこうなんですよ、つて。だから、(笑つて)今度、理沙ちゃんのお父さんとも、会って話してみたいな。……つて、そう言ってみて。お父さんに。

理沙 ……

福田 さ、行こう、岩田君。まずは館長とちゃんと話してみなくちゃ。さ、

岩田 あ、はい。

福田 (みんなに)ごめん、ちよつと待ってて。

福田と岩田は去る。

理沙 ……

松本 大丈夫？

理沙 (うなづく)

しばらくの沈黙がその場を包む。

琴子 (突然、明るく) はいはい、みんな並んで。

大石 どうしたの、琴子ちゃん？

琴子 練習、しましょう。だつてせっかくこれだけいるんだから。人が。

大石 ……うん、そうだね。

琴子 はい、並んで。ほら紀子さんも。

大石 あれ、でも、山城先生は？まだ来てないの？

松本 あ、山城先生、いません。

大石 いない？え、どういうこと？

松本 あ、そっか、大石さん、前回の練習お休みでしたもんね。

大石 うん、ちよっと仕事の出張で…。

松本 あの、山城先生、なんか、広島の方の短大で、講師の仕事頼まれたとかで、急に引越すことになったみたいで。

大石 え、…あ、…そうなんだ…。じゃあもうここには来ないってこと？

松本 そうですね。

大石 (力なく) ああ…、そうなんだあ…。

松本 あ、それで、山城先生の後任で、今日からあの、指導をしていただける小野先生。

小野 ……

琴子 (小野に) じゃあ、あの、よろしくお願いします。

紀子 (頭を下げる)

小野 ちよちよちよ、ちよっと待って。

琴子 はい。

小野 ……今日はやっぱり、…ちよっと考えさせて。

琴子 どういうことですか？

小野 ……なんか…、なんか今日は、ちよっと無理な気がする。

松本 どういうことですか？

小野 だってなんか…、なんか(卓球部員たちを見て)今日はじめての子たちもいるし…、(大石を見て)山城先生いなくなっって落ち込んでる人もいるし…、なんか、なんか…。そういう…、状況じゃないんじゃないのかな、ここ、いま。練習とかできるような。だって、なんか、実行委員長だって、あんな、ね、なんか、いろいろ抱えて、いらっしやっって…、なんか、落ち着かないっていうか、…そういう、こう、練習に集中できないみたいな…。ごめん、言い方よくないかもしれないけど、そういう、いろいろ整えてからここ来てほしいなって…。

琴子 ……

小野 だから…、あの…、ごめんなさい。

小野、頭を上げて出て行くとする。  
優が何か言おうとする、前に花奈が――

花奈 でも、

小野 ?

優 ?

花奈 だからいいんじゃないですか。

美結 花奈…、どうしたの？

花奈 ごめんなさい。わたしさっきはじめてここに来たばかりで何にも知らないんだけど、あ、それに卓球部だし…、でも、なんか、さっきからここにいて、なんか、すっごいいろんな人がいるなあって、――あ、わたし、習い事とかもしてないから、いつも、学校と、家と、なんかそれぐらいしか知らなくて、そしたら、ここ来たら、なんか変な――、あ、えっと、ふだん会わないような人がたくさんいて、だから、優ちゃんも、学校は来れないけど、ここにはいられるのかなあって…。なんか、いろんな人がいて、きつと、みんないろんなこと抱えてて、そんな人たちがみんな歌うって、なんか、なんか…、

優 花奈…

大石 ……え、じゃあ、みんな同級生なの、優太君の？

梨華 「優太」？

優 ……うん。わたし…、ぼく、ここでは、…優太なんだ。

梨華 ……あ、そうなんだ…

優 うん。

梨華 ……、いいじゃん。らしくて。(美結たちに) ね？

美結 うん。だって優ちゃんが――、あ、えっと、優君が、いちばんかっこ

よかったもん、卓球部で、あ、っていうか、うちの学校で。

梨華 そう！だからいいじゃん、優…太、君で。いちばん、しつくりくる。

優 梨華…、美結…

大石 えっと、ん、どういうこと？

優 すみません、大石さん。ちゃんと話してなくて。あの、ぼく、役所の書

類上は女なんです。名前も、大友優っていいいます。

大石 え、優太君じゃないの？

優 はい。

大石 えー？え、え、あの、え、みんな知ってた？

琴子、紀子、ジェームス、松本、理沙、うなづく。

大石 えー、ジェームスも？

ジェームス オフコース。大石さん。

大石 えー、俺だけ？

松本 (優に) 制服のスカート、穿くのが、なんか違和感があったんだよね。

優 (うなづく)

花奈 あ、だから学校来れなくなったんだ。

優 ……うん。

花奈 そっか……。

松本 でも、わたしもそう。

優 何が？

松本 違和感。んー、ズレかな。

優 ズレ？

松本 「きつとこうだろう」って周りが先回りして見てるわたしと、現実の

わたしの、ズレ。

優 ああ。

松本 「車椅子だから」、「障害者だから」、きつとこう、天使みたいに純粹

で、優しく、健気で、手を差し伸べてあげなくちゃいけないって、ふ

ふ、そんなこと全然ないのに。わたしだってたまに他人の悪口言うし、お

酒だって大好きだし、ひとりでできることだって、それなりにあるし。

ジェームス わたしもです。アー、「ガイコクジン」、アー、「アメリカジン」、

だからきつとステータス、好き。おおきな肉食べる。ノー。わたし、ベジタ

リアン。肉食べない。

大石 え、ジェームス、肉食べないんだ。

ジェームス ノー。食べません。

大石 へー。

ジェームス 大石さん、こんど、わたしとたくさん、ハナシしましょう。

大石 お、おう。

ジェームス ハナすこと、大事。ニホンジン、ハナすこと、わたしと、あな

た、違う、だからハナす、あまりしない。ただ合わせようとする。クウキ？

よむ？先回り？でも、ハナしてみないと、ほんとはわからない。

大石 あ、…うん。

優 (小野に) あの、先生。…小野、先生。

小野 何？

優 聴いてみたくないですか？

小野 何を？

優 こんなぼくたちの、歌声。こんな、みんな、なんかいろいろ抱えてて、

みんなバラバラだけど、

紀子 あの…

琴子 あ、

大石 え？

琴子 紀子さんがしゃべった！

梨華 え、しゃべらない方なの？

優 あ、うん。

紀子 わたしも歌います。わたし、いままで歌ってませんでした。合唱だか

らバレないかなと思って、ずっと、あの、口開けて歌ってるふりして。あ

の、わたし音痴なんです。音、全然とれなくて、でも、それでみんなの邪

魔するより、黙っとこうって、したら、ここにいられるかなって、みん

など、なんか一緒にいたかったんです。二年前に主人が出て行って。だか

ら家に帰ってもひとり、でも、ここに来ると、みんながいて、だから、

やっぱりここにいたくて、だから邪魔しないように、歌ってるふりしてて

…でも、やっぱり、歌います。だって歌ってみたいと、わかんないか

ら。「きつとみんなが嫌がるだろう」って先回りして、みんなに合わせよ

うとしてたけど、そんなの、みんなが嫌がるかなんて、やっぱり歌ってみ

ないとわかんないから。

ジェームス イエース、紀子さん。先回り、いらないね。

紀子 うん。ありがとう、ジェームス。

優 先生。

小野 ……。ほんと、バラバラ。…こんなバラバラで、ひとつの音なんて歌えるはずない。

花奈 だから――

小野 でも、…例えばそのバラバラの音が三度ズレると、それは、和音になる。そこから、和声が生まれる。

大石 和声？

松本 ハーモニー。

大石 あー。

小野 ここにハーモニーはある？

みな、お互いに顔を見合わず。

優 あります。

小野 相手に合わせようとし過ぎて、自分の音を見失ってしまったり…。

紀子 …はい。

小野 すぐ隣にある音を、なんとなくわかったつもりになって、でもほんとは聞けていなかったり…。

大石 あ、…はい。

小野 それでもここにハーモニーはある？

花奈 あります。

優 花奈…。

花奈 よね、優、君。

優 うん。

小野 …。

みんな、小野を見つめる。

小野 何、ぼーっとしてんの？練習でしょ、練習。本番、もう来月なんだからね。

みんなの顔がほころぶ。

優 はい！

琴子 よろしくお願ひします！

小野 卓球部も、大丈夫？

三人、顔を見合わせ、

梨華・花奈・美結 はい。

優 ……ありがとう。

梨華 うん。

ずっと奥の椅子に座って聞いていた片山、

片山 あ、あの…、なんかずっとあいさつするタイミングを逃してしまっ…。

優 あ、ごめんなさい。

ジェームス オー、アトムソーリー、カタヤマさん。

片山 片山広美といいます。えー、八十一歳です。えー、歌の経験もないし、

ま、年齢も年齢なので、みなさんの足手まといになるんじゃないかなと思っただんですが、あの、なんですか、あの、募集のチラシを見ましたら、「経験や年齢は問わない」と…、「誰でも参加できます」、って書いてあったもので、まあ、厚かましくやってきました。お邪魔じゃなければ、今からでもお仲間に加えていただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

ジェームス みなさん、いいですよ。

大石 もちろん。

拍手。

片山 (お辞儀をして) ありがとうございます。

優 (片山に) 大友、優太です。

ジェームス ジェームス・オリバー。

大石 あ、大石幸男です。

琴子 長谷川琴子です。

紀子 川上紀子です。

小野 小野――

片山 いやあ、ちよつと待ってください。とても覚えきれないなあ。あ、じ

ゃあこうしましょう。今日はあれだけど、今度わたしスケッチブックを持

ってくるので、おひとりづつ、お顔の絵を描かせてください。それで名前

覚えてますから。

大石 肖像画、ですか？

片山 いや、似顔絵程度ですよ。絵ならわたし、多少は、描けるので。

大石 あ、もしかしてあれですか。中学校の美術の先生だったとか。

片山 ま、そのようなもんです。

大石 へー。

理沙 (外を見て) お父さん……

大石 え？

理沙の父、巧一郎が来たらしい。

大石 え、あの入、理沙ちゃんのお父さん？

理沙 (うなづく)

大石 その、議員さん？あの、周平さんのこと、なんか問題にしてる……

理沙 (うなづく) ……なんで……

巧一郎、入ってくる。大きな体。そして、強面である。

巧一郎 あ、みなさん、おはようございます。あの、娘がお世話になってます。権名理沙の父です。

一同、軽く会釈をするしかできずにいる。

巧一郎 えーつと、理沙、その、実行委員長の福田さんは……

大石 (おどおど) あ、あの、権名さん、

巧一郎 あ、福田さんですか？

大石 あ、いえ、ぼくは違うんですが、

巧一郎 はあ……

大石 その、えーつと、(咳払い) 要するに、あの、……あの、えーつと、

この……、この……

松本 ちよつと話をしてもいいですか？

巧一郎 どうぞ。

松本 あの、わたしもこのミュージカルに参加してるんですけど、これ、こ

のミュージカル、原作が島崎藤村の「幸福」という童話で、あの、ご存じ

ですか？

巧一郎 いえ。

松本 あの、「幸福」がいろんな人の家を訪ねていくっていう話なんですけ

ど……。でも「幸福」だとわからないように、汚い格好して、誰なんだって

訊かれたら「貧乏」だって答えることにして、それでいろんな家、訪ねて

いくんです。

巧一郎 はい。

松本 で、犬を飼ってる家でも、鶏を飼ってる家でも、やっぱり追い返されるんだけど、でも次に行った、兎を飼ってる家では、「貧乏」だって名乗ると、その家の人は、おむすび一個と、それに沢庵もつけて、くれるんです。「幸福」はそれをうれしく思っ、その兎を飼ってる家へ幸福を分けて置いて来るっていう、そんなお話です。

巧一郎 なるほど。

松本 あの、だから、擬態ってありますよね、虫が、身を守るために、葉っぱに姿を変えたり、ほかのものに姿を変えたり、…だから、きつと大事なものって、擬態して、姿を変えてやってきてるのかもしれないって思うんです。

巧一郎 ああ。…あの、何の…話を、えーっと、

大石 福田さんです。

巧一郎 福田…、ああ、実行委員長のこと。

大石 見かけだとか、他人と違うとか、そういうところで、決めつけて、大事なことを見誤らないで欲しいっていうか…

巧一郎 そうですね。…でも、福田さんとそのことと…

理沙 お父さんが言ったんでしょ。

巧一郎 何を？

理沙 この館長に。福田さん、辞めさせろって。実行委員長を。

巧一郎 ……

巧一郎、ゆっくりと頭を抱える。  
のかと思っただけ…

巧一郎 ふふ、…ふふ、…ふふ、ははは、ははは…

理沙 え？…何？

巧一郎 いや、何でもない、はは…

理沙 え、何がおかしいの？

巧一郎 いや、ごめん、ごめん。はは。でも、悪いのは、きつとお父さんだな。

理沙 え、どういうこと？

巧一郎 電話した、確かに、この館長に。先週のはじめぐらいだったかな。

理沙 で、何て言ったの？

巧一郎 「福田さん、代わってもらえないかな」って。

理沙 ほら！やっぱり！

巧一郎 (笑いながら) 違う、違う。いや、反省してる。お父さん、しゃべり方が、こんな、なんか、ちよつと威圧的なんだろうな。だから、森も、あ、館長も間違っただろうな。

理沙 え？

巧一郎 いや、ちゃんと話す。えーっと、今度、議会で、そういう、マイノリティっていうのかな、そういう人たちへの、理解とか啓発とかをどうするかっていうことが議題になることになって、ちよつどその時、お父さん、たまたまテレビで福田さんのこと見て、あ、この人、この文化ホールで見たことあると思って、確か、このミュージカルの人だと思って、だから、館長に電話したんだよ。その、議会のことがあったから、やっぱり実際に会って、ちよつと話を聞いてみたいと思って。だから館長に電話で、「こういう人いるか」って言ったなら「いる」って。じゃあ、「代わってもらえないかな」って、いや、電話のことだよ、電話。「そこにいるなら代わって」ってそういう意味の。そしたら、館長、「わかりました。ちよつと検討します」って言うから、いや、なんで電話、代わるだけなのに、何を検討するんだらうなって、そしたらもう電話切れたから、まあ、また、改めて連絡しようと思って、なんか、そのままになって…、いや、お父さんが悪い。

大石 え、じゃあ、実行委員長を代われとかじゃなくて？

巧一郎 ふふ、違う、違う。

大石 じゃあこれって…

巧一郎 あいつ昔から、そういうところあったからな、先走るっていうか、ちよつとしたことであわてるっていうか…、ふふ。

大石 えー。もおー。

一同、ほつと安堵する。

優 あ、ぼく、ちよつと館長に言ってきます。

松本 あ、ありがとう。

優、出ていく。

理沙 え、じゃあ、お父さん、何しに来たの？

巧一郎 (かばんの中から取り出し) ほら、お弁当。朝、忘れてったろ？(渡す)

理沙 あ。

巧一郎 あと、もし、その福田さんがいらつしやればちよつとごあいさつしたいと思つて。

松本 あ、あの……、

巧一郎 あ、はい。

松本 すみません、なんか、ちよつとさつき、説教みたいなこと言つて。

巧一郎 あ、いやいや。いいお話でした。大事なものは姿を変えてやつてくる、つて、うん、そうですね、うん、なんか、うん、そうですね。

理沙 お父さん。

巧一郎 うん？

理沙 ……ありがとう。

巧一郎 うん、もう忘れるなよ、お弁当。

理沙 じゃなくて、

巧一郎 え？

理沙 ……もういい。

巧一郎 え？

理沙 あ、でも、ごめんなさい。

巧一郎 うん、何が？

理沙 わたしもお父さんのこと、勝手に決めつけてた。

巧一郎 え、何て？

理沙 ……また、ゆつくり、話す。うちに帰つてから。

巧一郎 ……うん……。

理沙 あ、(向き直つて) みんなも、……ごめんなさい。  
ジュームス ノー・プロブレム！

みんな、笑う。

館長がやつてくる。

優も戻ってくる。

館長 あ、先輩。

巧一郎 お、森。お前ちよつと来い。ちよつと話がある。

館長 え、え、何ですか？

巧一郎 ま、いいから来い。

館長 あ、はい。

「お前、あの、新人戦のときも……」などなど話しながら、館長と巧一郎は出ていく。

微笑みながら見送る一同。

福田、戻ってくる。

福田 (館長たちの姿を見ながら) え、何、どうしたの？館長。

大石 周平さん、もう大丈夫です。

福田 え、何が？

理沙 あ、あの、一緒にいるの、わたしの父なんです。

福田 あ、あの、その、…議員さん？

理沙 はい。

大石 だから周平さん、もう大丈夫です。

福田 うん？

大石 先輩と後輩の、ちよつとした行き違いでした。

福田 ……わかんないんだけど。

理沙 周平さん、…ごめんなさい。

福田 え？え？いろいろわかんないんだけど。

ふふふと笑う一同。

片山 あの、福田さん。

福田 あ、はい。

片山 あの、ごあいさつが遅れました。今日からこちらに加えていただきました。くうかがいました、片山広美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

福田 ああ、どうも。福田です。……ん？え、いま、なんとおっしゃいました？

片山 どうぞよろしくお願いいたします、と。

福田 あ、いえ、その前。お名前を……

片山 片山広美です。

福田 片山、広美って……、え、ヒロミ・カタヤマ？

片山 (微笑みながら) ええ、まあ。

福田 えー。

大石 え、誰なんですか、それ？

福田、壁まで行き、大きな絵を指して、

福田 これ。これ描いた人だよ！

一同 えー。

大石 なんかも世界的なっていう……？

福田 そう。え、イタリアにお住まいなんじゃないんですか？

片山 ま、歳も歳なんで、先月帰ってきました。妻と。

福田 え、奥さんって、なんか、イタリアの女優さんですよ。

片山 ま、もう引退しましたけど。

福田 え、でも、なんでここに？

片山 ー、友達が欲しくて。

福田 え？

片山 ふふ。まあ、まだ、いろんな人に出会ってみたいからね。

福田 ああ。

片山 十八の頃、退屈だと思ってこの町を飛びだして、でも、帰ってきて、

よく見たら、ここにもいろんな人がいた。いろんな人生があった。(みんなを見わたしながら) 彩り豊かな、いろんな人生がね。

福田 あ、この絵ですね。「彩」。

片山 そう。

マネージャーの柳が戻ってくる。

柳 あの、みなさん、ちよつとよろしいですか？

大石 あ、はい。なんででしょう？

柳 あの、うちの袴田がですね、せっかくなので、みなさんと一緒に歌ってみたいと言っています。

大石 ああ。

岩田も戻ってきた。

岩田 あの、特別に開けました、リハーサル室。あそこに本番と同じピアノがあるんで。

大石 周平さん。

福田 うん、行こう。せっかくだから。

タカシもやってきて、

タカシ さ、みんな行こうぜ！レッツラ・ゴー！

そして勢いよく去っていく。

みんな、一瞬呆気にとられ、けれど、あははと笑いながら、研修室へと向かう。

大石 しょうがない。つきあってやるか。な、琴子ちゃん。

琴子 うん。

歩きだしながら、

優 ぼく、

梨華 ん？何？

優 話してみようかな…。家族にも、先生にも、それからクラスのみんなにも。

梨華 ああ。

優 でも…

美結 うん。

優 受け入れてもらえなかったら…

花奈 大丈夫だよ。その時はここがあるじゃない。このこと、うちら、ミュージカル卓球部が。

美結 ミュージカル卓球部？

花奈 そ。

梨華 え、それ何？こう、歌いながら、ラリーするみたいなの？

花奈 そそそ。

美結 えー。

優 ふふ。

などなど、にぎやかにしゃべりながら中学生たちも去る。

理沙と松本が残っている。

研修室に向かおうとしている松本に、

理沙 あの、

松本 ん？何？

理沙 車椅子、押してもいいですか？

松本 え？

理沙 ずっと、なんか言えなくて…。いつも、言おうかなって思ってたん

だけど、でも、なんかやっぱり余計なことなのかなって、思ったりして…。

松本 ふふ。余計なことでも、でもやっぱり一度その境界線を越えてみないと、きつと、わたしたちってほんとうには出会えないのかもしれない。…なんてね。

理沙 ……。

松本 押して、車椅子。

理沙 はい。

理沙、松本の車椅子を押す。

松本 他の人はどうなのかわからない。でも、わたしはうれしい。押ししてもらえるの。

理沙 ああ、そうなんです。

松本 うん。

理沙 あの、もうひとつ訊いてもいいですか？

松本 え、何？

理沙 あの、ほんと、いまさら恥ずかしいんですけど…。

松本 うん。

理沙 あの、みんな「あーちゃん」って呼ぶじゃないですか。

松本 あ、うん。

理沙 あの、えーっと、名前、…なんていうんですか？

松本 え？

理沙 ほんとごめんなさい。

松本 ふふ。いいよ。…松本、彩音、っていいです。

理沙 松本、彩音、さん。…あ、椎名、理沙です。

松本 理沙ちゃん。

理沙 はい。

松本 ふふ。やっと出会えたね。わたしたち。

理沙 はい。

研修室からピアノの音が聞こえてくる。

理沙 あ、はじまった。

松本 行こ。

理沙 はい。あ、彩音さんって、いくつなんですか？

松本 えー、歳訊く？いきなり。

などなど話しながら、二人も去っていく。

やがてみんなの歌声が聞こえはじめる。

— 暗転 —

## エピローグ

歌いながら、みんなが戻ってくる。

登場人物たち全員で歌う合唱。

---

※この作品は、二〇一七年八月に三回開催された演劇ワークショップ「君のままでもいいんだよ。」で、参加者のみなさんがつくった物語から着想されたものです。  
あらためてワークショップに参加してくださったみなさんに深く感謝いたします。

## 〈作者紹介〉

### 永山智行（ながやま・ともゆき）

劇作家／演出家／劇団こふく劇場代表 1967年都城市生まれ。

1995年『空の月、胸の石』『北へ帰る』が日本劇作家協会新人戯曲賞候補になったのを皮切りに、数々の戯曲賞などを受賞。代表作『so bad year』（AAF戯曲賞優秀賞受賞作品）。『やがて父となる』（東京国際芸術祭リージョナルシアターシリーズ参加作品）など。

2006年10月から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターを務めた。宮崎県都城市を拠点に全国での演劇活動を展開する一方、宮崎県内の二つの町（門川町・三股町）の文化会館のフランチャイズカンパニーとして、子どもたちとの作品づくり、ワークショップ、町民参加作品の創作などに取り組む。2006年からは、障害者も参加する演劇プロジェクト「みやざき◎まあるい劇場」にも携わる。作品の質の高さ、活動の社会的な広がり、その両面から高く評価されている。

## きみのなまえ

2018年1月10日 初版第1刷発行

---

著者 永山智行  
編集・発行 特定非営利活動法人みやざき子ども文化センター  
©『きみのなまえ』宮崎県人権啓発推進協議会  
〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号8号館6階  
事務局 宮崎県人権同和対策課 電話：0985-32-4469

---

平成29年度宮崎県人権啓発推進協議会委託（法務省人権ユニバーサル事業）

